

令和6年度第1回 独立行政法人農業者年金基金資金運用委員会 議事概要

1. 開催日時

令和6年6月20日（木）16:10～16:55

2. 開催場所

独立行政法人農業者年金基金 一般会議室

3. 出席委員

・徳島 勝幸 委員長 ・小粥 泰樹 委員 ・菅原 晴樹 委員 ・枇杷 高志 委員
(小粥 泰樹 委員はWeb会議システムによる出席)

4. 議事

- (1) 令和5年度運用結果について（報告）
- (2) 令和5年度運用業務等の評価について
- (3) 政策アセットミックスの検証について

5. 概要

- (1) 令和5年度運用結果及び令和5年度運用業務等の評価について

令和5年度の運用結果を説明するとともに、被保険者ポートフォリオの外部委託運用については、内外株式のオーバーウエイト等の資産配分効果がプラス寄与したが、資産構成割合の変動等の影響によるものであり、運用受託機関の運用等を含め、被保険者ポートフォリオについて問題がなく、その他ポートフォリオについても問題がないことを事務局から説明し、了承された。

※農業者年金における資産運用については、被保険者ポートフォリオのほか、受給権者ポートフォリオ、被保険者危険準備金ポートフォリオ及び受給権者危険準備金ポートフォリオによって運用が行われている。

〔委員からの主な意見等〕

今回、国内債券の乖離許容幅を厳しめにしているが、パッシブ運用ということを考えると、資産配分効果とリバランスのタイミングに関するルールとの関係について、念頭においておく必要はあるのではないか。

- (2) 政策アセットミックスの検証について

被保険者ポートフォリオについて、最新の資産運用環境を踏まえた政策アセットミックスの検証を行い、現行の被保険者ポートフォリオの政策アセットミックスの運用の効率性は維持されており、現時点においては見直しは必要なく、その他のポートフォリオの政策アセットミックスについても見直しは行わないことを事務局から説明し、了承された。

〔委員からの主な意見等〕

- 政策アセットミクスは見直したばかりであり、その後、環境の大きな変化があったかを検証するというのが今回の主眼ではないか。
- 政策アセットミクスを見直す必要はないと思うが、国内債券の割合を減らし国内株式と外国株式の割合を増やした現行の政策アセットミクスへの見直しの方向性は、新たな経済見通しにおいても妥当であるという検討経緯が大事なのではないか。
- 経済見通しが変わると政策アセットミクスは変わるが、経済見通しには確からしさがああり、どのくらいの幅であれば許容されるというような考え方もあるのかとも思う。
- 為替の見通しについて、現時点でのベースとしては円高方向で良いと思うが、今後雰囲気が変わる可能性があるのかとも思うので慎重に見ていく必要があるのではないか。

(以上)